

成長は無量大山



校内人権問題意見発表会



6月21日、校内人権問題意見発表会が、本校体育館で行われました。3年生からは、学年代表として吉本愛結花さん、松原愛華さんが意見発表を行いました。当日までの練習の成果を發揮し、全校生に向けて自分の意見を堂々と述べました。意見発表の全文を掲載しましたので、ぜひ一読いただきご家庭でもお話し合ってください。

「いじめる側の心」 3年1組 吉本 愛結花



いじめは絶対にあってはならない行為です。そして、命に関わる問題です。頭の中ではわかっている、なかなかなくなりません。私は、誰もが、いじめをしてしまう闇の部分の心を心の中にもっているのではないかなと思うようになりました。

この考えに至ったのはある本との出会いからでした。それは「天国までの49日間」という本です。主人公安音はいじめが原因で自殺します。その後安音は、幽霊となって現れそこで、自分をいじめていた人たちの本心を知ることになります。自分をいじめていたいじめの主導者も、実は最初は、いじめられる側だったのです。では、どうしていじめられる側だった、その辛さを知っている人が、いじめをしてしまったのでしょうか。私には、二つの心境が思い浮かびました。

一つめは「孤独」です。みなさんも、日々生活する中で、寂しい、悲しい、辛いと感じたことはありませんか。

私の場合、仲良しの友だちとけんかをする、たいいてい私が一人になりがちでした。けんかをした後は、その場に居づらくなりました。仲間がいなくて、教室に居場所がないように感じ、教室の外に逃げ出したいくなりました。でも、一人で行動するのは、心細くてできませんでした。他の子たちから、友だちがいなくて、哀れみの目で見られると思ったからです。私にとって、友だちがいなくて思われることは、とても恥ずかしいことでした。

そんなふういきづまった時、私は家族や友だち、先生に伝えて、相談にのってもらうことができます。誰かに悩みを話すだけでも気が楽になるからです。私は自分の気持ちを安心して相談できる頼れる存在がいます。しかし、いじめをしてしまう人は、自分の気持ちを誰かに聞いてほしい、わかってほしいと心の中で思っている、安



心して相談できる頼れる存在をもっていないのだと思います。そんな孤独感が、いじめの辛さを十分にわかっている人を、いじめという行為に導いたのだと思います。

二つめは、「弱さ」です。いじめることで、自分が相手よりも強い立場であるという愚かな安心感を求めているのだと思います。また、もしかしたら、次は自分が。。。という不安な気持ちから、いじめる側になってしまうこともあると思います。そんな不安な気持ちから、ただただ怖くて仕方なく、そのしがらみから抜け出すことができない。そういう心の弱さが、「いじめ」という行為につながってしまうのだと思います。安音をいじめた主導者も、いじめられる辛さを知っている、いじめをしてしまった、その心の奥底には、気づいていなくても、本当はとても弱くて、満たされていなくて、もがき苦しむ、自分でもどうすることもできない、そんなものがあつたのではないかと想像します。

私が小学校の時にこんなことがありました。仲の良い友だちが私に、他の子の悪口を言ってきたのです。私は悪口を言われているその友だちのことを嫌だとは思っていませんでした。でも、反論できず、最後まで話を聞いてしまいました。また私自身も、人の悪口を言ってしまったことがあります。友だちと嫌なことがあり他の友だちにその子の嫌なところを、つい、言ってしまいました。悪いと思いつつも、自分の気持ちを他の友だちに聞いてもらい、共感してもらいたかったのだと思います。そして、自分が正しいことを証明して、ただ安心したかったのだと思います。そこに、私の弱さが見えました。あの時反論できなかったこと、つい悪口を言ってしまったこと、これは、次は自分が悪口を言われるかもしれないという気持ち、自分のための安心感を求める気持ち、そんな私の弱さからうまれたのだと思います。今もこの時のことを思い返します。胸に黒い影がじわじわと広がって、重たい気持ちになり、私の心の中から消えません。

弱さや孤独からいじめをしている人、そんな相手に今の私ができることは、「一人じゃないよ」と伝えることです。友だちの様子気がなったら、「どうしたの。いつもとちがうよ。」と声をかけます。悩みを話してくれたら、「つらかったね」とか、私が思うことを伝えて、私にできることがあるか聞きます。自分にできるなら、します。自分の手に負えないことなら、了承を得た上で、他の人に相談し、いっしょに悩んで、悩みを解決できる方法をさがします。そして、孤独感や弱さから生じるいじめのもとを断ち、一人ひとりの居場所がある本当の仲間になっていきたいです。

「戦争について」3年2組 松原愛華



今、ウクライナとロシアが戦争をしているということもあり、それについて話そうと思います。

私は戦争を体験したことはありません。ですが、戦争についてのエピソードが描かれた映画は見たことがあります。だから、戦争の危険さや恐ろしさというのは、すでにわかっているつもりでいました。しかし、映画と現実の違いはありました。今、ウクライナで起こっていることは、私がこれまで見てきたどの映画よりももっと怖いと感じたし、現地の人



苦痛を思うと、ぞっとしました。

そして、こんな戦争が自分の生きている間に起きたということにとっても驚きました。私にとって戦争は、映画の中のできごとであり、歴史上のできごとだったからです。社会の授業で戦争について勉強したことはありました。ですが、実際に起こることは二度とないだろうと、勝手に安心していました。だから、今回のことには本当にびっくりしたし、不安に思いました。

ウクライナとロシアが戦争をはじめたばかりのころ、私は状況を軽く考えていました。戦争とは言っても、そこまで激しく争ってはいないだろうと想像していたのです。しかし、SNSをたちあげて、ウクライナの人々が今の状況を伝えている配信を見たら、自分の考えがまちがっていたことがわかりました。

とても怖がっている子どもを、お母さんが必死にだっこしている様子を見ました。サイレンが鳴ったとたん、かくれることができる部屋に逃げ込んでいく人たちを見ました。自分が想像していたより何倍も恐ろしいことが、すぐその世界で起きている。そのことを実感し、大きな衝撃を受けました。

お母さんにだっこされた女の子の声を、今でも鮮明におぼえています。「怖いよ、怖いよ」と、彼女は何度も言っていました。それはそうです。だって、あんなにすぐ近くで、爆発音や兵隊の叫び声が聞こえて、真っ暗なところに慌てて避難して、小さい子からしたら、何がどうなっているのかもわからなかったかもしれません。絶対に怖いと思うし、自分がもし同じ立場だったら、爆発音やサイレンが鳴るたびにパニックになったことでしょう。今すぐにも安全なところに行きたいと願うはずです。

サイレンがいったんおさまっても、またいつ鳴りだすかわからないので、夜もあまり眠れないでしょう。落ち着いて心を休ませるひまありません。そんな心身ともに疲れ果てるような状況で、大人も子どもも耐えているのです。本来ならすべての人に保障されなければならない安心安全に暮らす権利が、今、大きく傷つけられています。

ウクライナとロシアの戦争を止めるために、路上でポスターを持って「やめてください」と訴えている人たちがいます。大人だけでなく子どもたちも参加して、反戦活動をしています。しかしロシアでは、「戦争をやめよう」と言うだけで捕まってしまうようなこともあると聞きます。本当に戦争をやめて欲しいと願って国民が声を上げているのに、意見を取り入れてもらえないだけでなく逮捕されるなんて、おかしいです。これもまた、戦争のせいで権利が傷つけられてしまっていると感じます。

私にはもう一つ、とても印象に残っている映像があります。それは、戦車でウクライナの町にやってきたロシア兵と地域住民とのやりとりです。武器を持たないウクライナの住民がロシア兵を非難し、怒りをぶつけていました。ですが、それに対してロシア兵の人たちは、とても優しく丁寧に対応していました。それを見て私は、ロシアの中にも、本当は戦争なんてしたくない人が多いのではないかと思いました。ウクライナの方も、できることならロシアとは良い関係でいたかったはずです。

もしかしたら、私が見たあの光景は、ウクライナで起こっているたくさんの悲劇の中の、ごくごく珍しい、例外に過ぎなかったのかもしれませんが。SNS上には、嘘の画像や映像も飛び交っていると聞きます。正直、戦争につい

て深く考えようとする、難しいことが多すぎて、投げ出したくなってしまう部分もあります。

ロシアの中にも戦争を嫌がっている人がいるんだから、戦い始める前に、国民のみんなと大統領でしっかりと話し合えるような仕組みがあれば良かったのに、と、私だったら考えてしまいます。戦争なんてするくらいなら、たとえんざりするほど時間や苦労が必要だとしても、理解し合えるまで議論し続ける方がよっぽどいいと思います。けれど現実には、そう簡単ではないのでしょう。

私はまだ、政治のことなんてよくわかっていないし、ロシアの事情も、ウクライナの事情も、詳しく理解はできていません。今、こうして戦争が起きている背景には、色々と複雑な理由があるのでしょう。それでも、やっぱり、戦争なんて起きるべきではなかったと強く思います。

戦争をしたって、誰も得をしません。今回の件で、ロシアは世界中の人々から批判の対象とされるようになりました。たとえ、ウクライナを攻撃することで得られる物があっても、それ以上に多くの物を失ったはずで

す。そして何より、この戦争を通して多くの人の命が失われていることを、私は悲しく思います。同時に、怒りもおぼえます。あってはならないことだと思います。今この瞬間も、誰かが死んでいるかも知れません。その事実を、忘れてはいけないと感じています。



校内人権問題意見発表会をきいて



○私は、家族や友だち、周りの人の大切さに改めて気づかされた。私も、松原さんや前田さんと同じで、戦争は、映画や物語、歴史の中の出来事であって、自分の生きている間に起きるはずがないと決めつけてしまっていた。でも、ウクライナとロシアの戦争が起こり、何人もの人が戦争で亡くなっているというニュースが、毎日報じられ心が苦しくなった。そのニュースを聞いて、だからこそこれからの社会をつくっていく私にできることは何かを考えた。仲間に対して、自分がされていやなことはしないし、仲間感謝しながら過ごすことだ。家族や友だちがいることは、本当に幸せなことだ。戦地では、明日自分が生きているかわからない、家族や友だちに次会えるかわからない世界だ。今の生活が楽しかったとしても、辛かったとしても仲間がいること、自分が幸せに生活できていることの大切さを感じながら、これから生活していきたい。

○私は吉本さんの発表が心に残った。自分の実体験を踏まえながら、いじめをする側の原因の一つひとつ丁寧に考えていたからだ。特に小五の運動会の準備中に起きた出来事にリアリティーがあった。どっちの味方につくこともできないけれど、自分まで被害者になりたくないという複雑な気持ちを素直に伝えていた。また、エピソードの中で吉本さんは、両方に「何があったの？」と声をかけていて、その行動に人柄が表れていると思った。今もまだ心の底に残っている嫌な出来事を、多くの人に正直に伝えるのは難しいはずだ。だから吉本さんは勇気があるなと感心した。発表内容はもちろんだが、態度もすばらしかった。声の強弱、はきはきとした話し方、たくさん練習したことがよくわかった。吉本さんの真剣な思いが表れている、完璧な発表だった。

7月の主な行事予定

1日(金) 漢検	13日(水) 実力テスト・専門委員会
2日(土) 県中オープンスクール	14日(木) 川島高校進学説明会 
3日(日) 英検2次試験	15日(金) 補充学習
4日(月) 期末考査	19日(火) 中学生集会
5日(火) 期末考査	20日(水) 終業式・三者面談～26日
6日(水) 期末考査	21日(木) 登校日・補習
8日(金) 補充学習	22日(金) 登校日・補習
9日(土) 県総体～10日	25日(月) 登校日・補習・市陸上競技大会
12日(火) 補充学習	

保護者のみなさまへ

いよいよ1学期も残すところ1ヶ月足らずとなりました。子どもたちにとって中学校生活最後となる行事の一つひとつが終えられていきます。